

第24回例会

通算第 1258 回例会 2026 年 2 月 4 日(水)

12:30~13:30 郡山ビューホテルアネックス

- ▶ 開会点鐘
- ▶ 国歌斉唱
- ▶ ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱
- ▶ ロータリーの目的・四つのテスト唱和: 蔭山寿一さん

▶ 宮崎登志行 会長 挨拶

今日は立春ということで暦の通り穏やかな春の気配が感じられますが、週末にはまた寒波が来るということです。健康に十分注意していただければと思っています。

2月14日に中央分会のIMがここアネックスで15時から行われます。

今のところ20数名の参加となっておりますが、より多くの方々の参加をよろしくお願ひしたいと思っています。



▶ ミン ヘイン カントさんに 2月の米山奨学金お渡し

▶ 2月のお誕生祝い: 平栗幹也 親睦活動副委員長

宮崎登志行会長、味戸誠一郎さん、西山早苗さん、小林悦子さん、井上厚さんに花束をお渡しします。長尾勉さんにはのちほどお届けします。



▶ 出席報告: 井上 厚 出席委員長

会員数 43 名、出席 19 名、欠席 24 名、出席率は 44.19%です。

▶ スマイルBOX報告: 増子ふみえ 委員長

小林悦子さん、宮崎登志行会長、味戸誠一郎さん、小口憲太郎さん、蔭山寿一さん、片桐栄子さん、佐藤功一さん、西山早苗さん、平栗幹也さん、平原憲さん、星相ノ介さん、増子ふみえ、12名からいただきました。

▶ 幹事報告: 渡邊万里子 幹事

地区より3月14・15日にホテル華の湯で開催される第44回ライラ研修会への参加について再度ご案内が来ております。皆様の若い社員さんが対象です。詳細は事務局よりお知らせいたします。

プログラム: 会員卓話

▶ 小口憲太郎 国際奉仕副委員長「アマテラスの暗号」



とても面白いサスペンス「アマテラスの暗号」という本にびっくりしたことがいろいろありまして、皆様にもご紹介しようと思ひまして資料を作ってみました。1時間でも終わらない感じになりました。日本の神話の中にユダヤの旧約聖書に出てくる話と同じような話がいっぱいあったり、日本語にもペブライ語と同じような言葉があったりするという、とても面白い内容なのですが、今日はほんの入り口の日本神話の部分だけで終わりそうです。私の話を聞いてもストーリーには全く触れませんのでネタバレにはなりません。面白そうと思ったらぜひお読みいただければと思います。

日本神話の古事記や日本書紀にはいろんな神様が出てきます。最初に現れる神様はアメノミナカヌシで、特別な神様が五柱続き、その後また特別な神様が七代続いて、最後の七代目にご存知のイザナギとイザナミが出てきます。この二人はさまざまな国を産み、その後に神様を産みます。最後にイザナミが火の神のカグツチを産んだら、その火に焼かれてイザナミは黄泉(よみ)の国へと旅立ちます。イザナギは黄泉の国に行ってイザナミを連れ帰ろうとしますが、イザナミは黄泉の国の食べ物を食べてしまったので帰れないと答えます。そこをなんとかと言い寄られて、イザナミは「支度をする間は私を見てはいけません」と言いました。いけないと言われたら、必ずそうしてしまうわけですね。イザナギが見るとイザナミの体の至るところに雷が宿っていて、怖くて逃げ出します。イザナミが追いかけてきますのでイザナギは黄泉比良坂(よもつひらさか)を駆け下ります。黄泉の国は上の方にあったんですね。千引の石(ちびきのいわ)を隔ててイザナミが「私に恥をかかせたお前の民人を1日に1000人殺す」と言うと、イザナギは「私は1日に1500人生もう」と言いました。少子高齢化を考えると羨ましく思いますね。イザナギは黄泉の国の汚れを払うために禊(みそぎ)をしました。左目を洗うとアマテラス、右目を洗うとツキヨミ、鼻を洗うとスサノオが現れました。イザナギはアマテラスに「神々のいる高天原(たかまがはら)を治めなさい」と言い、スサノオには「大海原を治めなさい」と言いました。ところがスサノオは「お母ちゃんのいる黄泉の国に行きたいよ」とダダをこねたので、イザナギは怒ってスサノオを追放してしまいました。スサノオは黄泉の国に行く前にお姉ちゃんに挨拶しようと高天原に行くと、アマテラスが武装して待ち構えていました。スサノオは「私は高天原を攻めようなんて考えていません」と言ったところ「どうやって証明するのか」と聞かれて、言葉が正しいことを証明するためお互いに子供を作る誓約(うけい)をしました。アマテラスがスサノオの剣を噛み砕いて吐き出したら三柱の女神が生まれ、スサノオがアマテラスの首飾りの玉を口に含んで吹き出したら男の神様が五柱生まれました。

誓約によってスサノオが清らかな心であると証明されましたが、高天原でいろんな乱暴をしたので、アマテラスは天岩戸(あまのいわと)に隠れてしまいました。世界中が真っ暗になったので神々が集まって談合をしました。もともとは神聖な話し合いだったわけですね。アメノウズメが踊り、神々がはやし立てたので、アマテラスが天岩戸をちょっと開けてみたところを天手力男神(あめのたちからおのかみ)がガシッと掴んで岩を放り投げ、アマテラスが外に出てきて太陽が戻ったという話です。スサノオは高天原から追放されて地上に行くと、おじいさんとおばあさんと美しい櫛名田比売(くしなだひめ)が泣いていました。「私たちにはいっぱい娘がおりましたが、八俣遠呂智(やまたのおろち)が毎年娘を食べに来て、とうとう最後の姫の番になりました」と聞いたスサノオは「娘を嫁にしてくれるなら私が退治してあげましょう」と言って八塩折之酒(やしおりのさけ)を造りました。できたお酒を仕込み水にしてさらにもう1回…これを8回繰り返して、8つの壺に入れて待ち構えると、頭が8つ、尻尾が8つの大蛇がきて、壺のお酒を飲んで酔っ払って寝てしまいました。スサノオが尻尾を切ったところ天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)が出てきました。後にヤマトタケルノミコトが火に囲まれたときに、その剣で草を払って助かったということで草薙の剣という名前が付き、天皇家の三種の神器のひとつとなっています。

大国主大神(おおくにぬしのみこと)は、兄たちの八十神(やそがみ)と一緒に、婿になるための旅をしておりました。大国主は八十神の荷物を全部担がされていたので遅れていました。ワニをだまして皮をむかれて裸にされた因幡の白兔が泣いていて「八十神から海水で洗って風に吹かれなさいと教えられてその通りにした」と言うので、大国主は「すぐに真水で洗ってガマの穂の上で転がりなさい」と教えてあげました。兔の「スサノオの娘の八上姫(やがみひめ)は八十神とは結婚しません」との予言の通り、八上姫と大国主はスサノオが出す課題を解決して結婚します。スサノオの後継ぎとなった大国主は国造りをしました。豊原中国(とよあしはらのなかつくに)の栄えた様子を見て、アマテラスは私の子孫が統治すると宣言して、武甕槌(たけみかづち)を使わせました。大国主が「国はお譲りします。そのかわり私のために宮殿を建ててくれたらそこから出ません」と言ったので社が作られました。今の出雲大社です。

最初は高さ32丈(96メートル)あり、平安時代に建て替えをして半分になってもまだ16丈(48メートル)ありました。出雲大社に設計図が残っていたのに、こんな高い建物があるはずがないと言われていましたが、設計図通りの太い木を組み合わせた柱の遺構が現れたので、実際にあったとされています。

次に誰を豊原中国に使わすかという話になり、アマテラスの孫のニニギノミコトが降りることになりました。天孫降臨です。地上に降りたときに美しいコノハナサクヤヒメを見ました。結婚を申し込むと、お父さんは姉のイワナガヒメも一緒にもらってくださいということでしたが、コノハナサクヤヒメは美しかったけど、イワナガヒメはそうでもなかったので返してしまいました。コノハナサクヤヒメは花のように美しいけれど、花の

ように短い命だったので、神様のアマテラスの子孫は人間と同じ寿命になったと言われております。

海幸彦、山幸彦の話は青木繁の「わだつみのいるこの宮」で有名です。海幸彦はホドリ、山幸彦のホオリは神武天皇の祖父とされています。たまには獵具を交換しようとしたところ、ホオリがホドリの釣り針をなくしてしまい、大切な剣を鑄つぶしてたくさん釣針を作って持って行きますが許してもらえませんでした。泉に水を汲みに来たトヨタマ姫がホオリを見つけて二人は結婚し、お父さんのワタツミの神様から2つの玉を授かります。帰ってきたホオリをホドリは軍隊を引き連れて取り囲みますが、軍隊は玉による塩水で溺れてしまい、最後には和解しました。トヨタマ姫の出産のために産屋を作っていて屋根をかける前に生まれてしまったのが変わった名前のウガヤフキアエズです。この時も「決して見えてはいけません」と言われて、やっぱり見えてしまうわけですね。するとなんと大きなワニの姿でした。ワニとはサメのことです。姿を見られたのでワダツミの国に帰ってしまいますが、子供を育てるために妹を使わせました。男の子は4人いて、兄さんと4番目の神武天皇が東の国に来て治めようとしたわけです。その時に八咫鳥(やたがらす)が案内しました。日本のサッカーチームのマークになっている八咫鳥は足が3本ですが、古事記とか日本書紀には足が3本とは書かれていません。太陽には3本足の大きなカラスがいるという中国と韓国の伝説が混じったようです。

神武天皇から現在の今上天皇まで万世一系の男系男子です。男女を区別してはいけないと思うかもしれませんが、男系男子には意味があります。神武天皇のY染色体を今上天皇も持っていられるわけですね。一時的に女帝が立っても、その後に男子男系の天皇が立つとしていたわけですね。女系も認めましょうという話になっていますけれども、そうすると神武天皇の染色体を持ってますとは言えなくなるわけですね。結果的に神武天皇のY染色体を天皇家は2600年間持っているということで、これは世界に誇れることなのではないかということです。

神話学の世界的権威クロード・レヴィ=ストロースは「世界の神話のほとんどは歴史の連続性はないが、唯一、日本神話だけは歴史と結びつき、神話から歴史への移行は巧妙」と言いました。

我々は戦争に負けた後に神話などは教えてはいけないと言われました。ところがイギリスの歴史学者アーノルド・トインビーは「これまで世界の歴史の中で12歳までに自民族の神話を教えることをやめた民族は、すべて百年以内に消滅した」と言っています。

我々の神話は大切な民族の歴史だということをお伝えしたくてお話ししました。本当はもっといろいろあるのですが、それはまたの機会としたいと思います。

